

第74回 令和7年9月1日（月）

もうしばらく暑い日が続きそうなので熱中症にはくれぐれも注意してください。それでも朝と晩は日が短くなって少しづつですが秋の気配がしています。

6月から10月まで夏が続きそうです。昨年の猛暑の記録が簡単に塗り替えられていくのを見ると、この傾向は毎年続くものと思ったほうがよさそうです。

気候は変えられないので私たちのライフスタイルを合わせていくしかありません。クールビズやハンディファンなど、個別の努力も限界があります。政治的な対策が必要なのかもしれません。

一つはサマータイムの導入。日本の場合デジタルで動いているものが多いので難しいと言われていますが、1時間時計を早くできれば快適な朝に働いて熱帯夜は早く家に帰って休むことができるかもしれません。ただこの政策は何回も検討されて、その度に見送られています。

夏季限定のフレックスタイム導入とか、公務員もできるといいかもと思います。

もう一つは「夏期集団移住」です。日本には標高の高いところなど夏でも快適な場所がたくさんあります。観光地は人が集中しますが人口減少が課題になっている土地もかなりあると思います。

6月から10月からの半年は役所や病院ごとそちらに移住するはどうでしょうか。学校も廃校になった校舎を利活用すればできそうな気がします。自然をテーマにした探究活動や地域おこしの運動もできるかもしれません。

別荘を持つのは資産のある人しかできないと言われてきましたが、人口減少で空き家問題が深刻化しています。いまならハードルを下げることができるかもしれません。

山だけでなく海風が涼しい海沿いの地域なども候補地ですよね。

とにかくこの暑さは日本の国力を下げてしましますし、熱中症の死者は災害レベルですから何らかの対策が求められると考えています。

昔日本は近畿に政権を造り、大王中心に奈良や京都に都を築きました。信長の岐阜や秀吉の大坂を経て、江戸時代に当時何もなかった関東に徳川が幕府を開いたわけです。それからまだ400年くらいしか経っていません。

世界の歴史のある都市を見れば400年というのは決して長いほうではありません。地球温暖化を理由に限定的な遷都をすることは不可能ではないと思うのですがどうでしょうか。

緑の高原で滝のミストを浴びながら、鳥のさえずりを聞いて授業をする。1年の半分くらいのような経験ができると精神的にも良いと思うのですが政治家の皆さんいかがでしょうか。